

身体障害認定基準に関する国会会議録

平成15年2月12日：衆・予算委 阿部知子議員（社民）質疑（抄）

（阿部君）

高齢者に係る在宅酸素療法について、健保法改正により窓口負担が上昇した事によって、全国で12万名あまりいる患者の中の1～3%に当たる、1,200人から4,000人が治療の中断を余儀なくされているが、大臣の現状認識と対応如何。

（大臣）

高齢者の1割負担に絡みまして、いわゆる在宅酸素療法についてのお尋ねでございますが、この問題については確かに今までと異なりまして、1割負担、1万円前後を御負担になっており、低所得者の場合は8千円が上限となっております。

御家庭で酸素吸入をお受けになっている皆さんの中にも、経済的に十分に耐えられる方、そうではなくて、8千円でも厳しいと思われ方がどれ位いるのか、今、12万人数千人、12万4千人から12万5千人だと思われる方がおり、8千円でも厳しい方がどれ位いるのかは、少し調べないと分かりません。

それだけではなくて、障害者の問題がどうなるのか色々な問題が有り、例えば肝臓移植を障害として認めるかどうか、このいわゆる肺に障害のある方についてはどうか、その時その時に作った時は、それなりに理由が有るのですが、今比較すると、これが入っていてそれは入っていない、というように、非常に分かりにくくなっている事も事実でございます。これらの問題を、総論的に整理してどうするかについて決着をつけたいと思います。その中には、今御指摘になられた肺疾患の問題も含めて検討させていただきます。

（了）